

# HYPERFLASH

## コミュニティ・ネットワークの構想

公文俊平

ハイパーネットワーク社会研究所所長

大分での地域情報化実験の準備が進められる中で、「コミュニティ・ネットワーク」とでも呼ぶことができる新しい形の地域に密着した情報通信システムの構想が、しだいにはっきりした形をとりはじめてきた。

### コミュニティ・コミュニケーション

もっとも密度の高い情報の交流は、遠隔地(たとえば「東京」や「海外」との間にではなく、それぞれの地域自身の中での各種の生活情報の交流の中にある。それが「コミュニティ・コミュニケーション」に他ならないが、これには、自分が公開したいと思う情報を各人が提供する(コアラのホームページ等)一方で、他人の公開している情報を積極的に取りにまわるという「パブリック・コミュニケーション」の側面と、行政・企業・ボランティアなどさまざまなグループが、集団としての協働活動を効果的に進めていくためにさまざまな情報をやりとりする「グループ・コミュニケーション」の

側面がある。地域の情報化の狙いは、これまでの「マス・コミュニケーション」(新聞や放送)と「パーソナル・コミュニケーション」(手紙や電話)に加えて、こうした「コミュニティ・コミュニケーション」を活発に行うための情報通信システム、つまり「コミュニティ・ネットワーク」を、構築し利用していくことにある。

### コミュニティ・ネットワーク

コミュニティ・ネットワークは、電話のように双方向性をもつと同時に、放送のようにコミュニケーションのいたるところと常時交信可能な、しかも大量の情報の伝達を許す広域のデータ通信のネットワークでなければならない。もちろん、コミュニティの外にも、開かれていることが必要だ。つまり、地域情報化の進展と共に、電話でも放送でもない、別の形の情報通信システムが、全国に拡がっていくことになるだろう。

すべての商店街や団地に、行政部

局や学校や病院や企業に、光ファイバーの情報ループがはりめぐらされ、それらがお互いにつながっている。それぞれの情報ループのいたるところに情報コンセントがあって、いろいろな情報機器をそこにさしこんでそのまま使うことができる。同時に無数の携帯型の情報機器が、無線で情報ループにつながっている。これが、コミュニティ・ネットワークの物理的なイメージである。

コミュニティ・ネットワークの建設には、多種多様な主体が参加できる。電話会社も、電力会社も、建築会社や電気工事会社も、それぞれがいろいろな場所に情報ループを作つて、それらを相互に連結しあえればよいのである。NTTがこのほど発表した「オープン・コンピューター・ネットワーク(OCN)」構想は、ここでいう「コミュニティ・ネットワーク」に非常に近いものだと思われる。これから大分での地域実験が進む中で、その大きな柱の一つとして、「コミュニティ・ネットワーク」の構築と運用が取り上げられることを、願ってやまない。

# 大分地域実験レポート

## 大分県におけるマルチメディア実験について

### 1. 実験の目的、概要

今回の大分県におけるマルチメディア実験では、大分県内に光ファイバーをはじめとする高速通信網を敷設し、世界的なコンピュータネットワークであるインターネットの技術と、パソコン通信におけるコミュニケーション利用の特長を盛り込んだマルチメディアネットワークを構築することにより、実験参加ユーザーが各種のマルチメディアネットワークサービスを利用することができます。

実験参加ユーザーは、このサービスを利用することにより、行政、教育、医療、商工業等の各分野において、マルチメディア情報を活用した新しい形での情報発信、情報交換、コミュニケーション利用、産業の創出等を行うことができるようになります。

### 2. 実験サービスの内容

大分県におけるマルチメディアネットワークサービスの中核をなすシステムとして「情報サービスステーション (ISS : Information service station)」を設置し、以下の(1)～(10)のサービスを提供します。実験参加ユーザーは、光ファイバー利用の高速通信網、既存の通信網、パソコン等の端末、専用のアプリケーションソフトなどを活用することによって、これらのサービスを利

用することができます。

#### (1) インターネット型動画像通信網への接続サービス

大分市内及び別府市内の施設と東京の関係機関、合わせて20カ所程度に光ファイバーを引くことにより1.5Mbps～6Mbpsの高速デジタル通信を実現し、動画像を手軽に扱えるインターネット型通信網を構築します。

(2) インターネットへの接続サービス  
既存の専用線かINS64（デジタル公衆網）又は電話回線（アナログ公衆網）を利用してインターネットに手軽に接続できるようなサービスを行います。この場合に想定される通信速度は9600bps～128kbps(2ch)程度です。

(3) ビデオメールサービス  
現在の電子メールから進化し、ビデオ画像で相手に話しかけられるようなインターネット型のメールサービスを提供します。

(4) マルチメディア電子会議サービス  
現在のパソコン通信の電子会議の特長であるコミュニケーションのしやすさに、ビデオ画像を扱える機能を付加した新しいタイプの電子会議サービスを提供します。

(5) マルチメディア情報提供サービス  
現在のインターネットのホームページの中で、ビデオ画像が手軽に扱えるサービスを提供します。これを利用することにより、個人のビデオホームページの提供、企業の宣伝や行政利用などを行うことが出来るよ

うになります。

#### (6) 電子決済機能

本格的な商用利用の前提となる、ネットワークにおける決済機能を研究開発し、インターネット上での商取引を安全かつスムーズに行えるようになります。

(7) ネットワーク・アクセスブース\*  
情報サービスステーション (ISS)  
内に設けられた部屋で、インターネット型動画像通信網やインターネットへ実際に接続（アクセス）を体験することができます。また、マルチメディア作品の利用や鑑賞ができるCD-ROM図書館も併設します。

#### (8) デジタル工房 \*

情報サービスステーション (ISS)  
内に設けられた部屋で、自分の持っているビデオや写真などをデジタル化したり編集したりすることができます。

#### (9) インターネット放送局 \*

情報サービスステーション (ISS)  
内のスタジオで収録したデジタルビデオをホームページ化してインターネットに提供します。

(10) マルチメディア・ハウ・ツー教室 \*  
インターネットの利用のしかた、情報提供のためのマルチメディアデータの取り出し方や加工のしかたを専門スタッフが指導します。

(\*についているサービスは現実にISSにやって来て施設を利用する。その他はネットワーク上のサービスです)



●情報サービスステーションが入居予定の大分第2ソフィアプラザビル

### 3. 実験ネットワークのユーザー分野毎の利用方法

参加予定のユーザーがどのようにマルチメディアネットワークを利用しようとしているかの検討例を、分野別にまとめてみました。

#### (1) 公共機関

行政機関等の公共機関における利用方法の例をあげます。

##### <例1>県庁

県庁内のLANと実験ネットワークを接続して各課を結んだマルチメディアメールによる情報交換、東京事務所とのメールの交換を行う。

また、情報提供サーバーを利用して、県の統計情報、県報、知事記者会見資料、県議会議事録、広報誌等の各種行政情報を提供する。

##### <例2>コンベンションホール

情報提供サーバーを設置して、館内の案内図、イベントスケジュール案内、会議室の予約状況、観光案内等の情報提供を行う。

さらに、過去の利用者等を登録していて、メールによるイベント開催案内等の情報提供、イベント開催後の参加者へのフォローといったレジストレーションシステムへの活用も検討する。

##### <例3>中小企業情報データベース

現行の中小企業情報データベースのマルチメディア化を行うとともに、蔵書のデータベース、企業情報のマルチメディアデータの提供、インターネット放送局を利用したニュース、産業紹介を行う。

#### (2) 教育機関

大学等の教育機関における利用方法の例をあげます。

##### <例1>リアルタイム共同作業の実施

大学間等をマルチメディアネットワークで接続することにより、リアルタイムで双方向で同じ画像を見ながら、共同でデザイン等を行う共同作業を行う。

##### <例2>遠隔授業の実施

大学、短期大学、高専、小中学校等をリアルタイムに接続し、合同で

また、コンベンションホール内に街頭型端末（ターミナル）を設置して、コンベンションホール来場者が上記の各種情報を利用できるようになる。

リアルタイムの遠隔授業を実施する。

##### <例3>学校紹介

情報提供サーバーを利用して、学校紹介、学校からのニュースの提供、学校間の情報交換にも利用する。

#### (3) 医療機関

病院等の医療機関における利用方法の例をあげます。

##### <例1>遠隔医療支援

医科大学と県内の病院をマルチメディアネットワークで接続して、MRI画像、CT画像等の伝送を行い、遠隔医療支援等に利用する。

##### <例2>症例データベースの構築

情報提供サーバーを利用することにより、症例データベースを構築し、県内の各病院へ情報提供を行うことを検討する。

#### (4) 企業関係

企業等の利用方法の例をあげます。

##### <例1>企業紹介

情報提供サーバーを利用した企業、店舗、商品の紹介をする。また、インターネット放送局を利用して、各企業のコマーシャル映像等の提供も行う。さらに、スポーツクラブ等では、館内のリアルタイム映像の提供も検討する。

##### <例2>オンラインショッピング

情報提供サーバーに掲載された商品をネットワークを利用して注文できるようにするとともに、商品の代金をネットワーク上でデジタル的に決済することを検討する。

大分  
Now!

# 進化するコアラホームページ!



●夏に向けてイメージを一新。コアラホームページ

## ■ホームページ誕生1周年

コアラがインターネット接続サービスを始めて1年を迎えます。今回は、この1年を振り返って、コアラ・ホームページの発展を紹介します。

昨年の7月にコアラは、インターネット接続サービスを始め、それと同時にホームページ『COARA WWW ダイアリー』がスタートしました。内容は、従来のコアラ・パソコン通信会議室で日常的に交わされている会話に写真を添えて日記風に情報を交換しあうといったものでした。それから1~2カ月後には、会員が自らのホームページを持つ『One person, One homepage』というサービスが生まれました。このサービスは、現在どのプロバイダーでもみかけるものとなりましたが、早い時期か

ら個人会員を対象とした簡易なサービスを提供したのは日本ではコアラが初めてだったように思います。これも10年来、「一人一人が主人公である」といった考え方を持って成長してきたコアラだからこそ実現できたことなのでしょう。こういった点が評価され、コアラは昨年の暮れにマルチメディア・グランプリ'94ネットワーク部門最優秀賞を受賞しました。

## ■新メニューも続々登場

その後も、コアラホームページは、続々とメニューを増やしています。国際ワールドカップ日本招致委員会公認情報『World Cup Japan 2002』、別府市の観光とイベント情報『べっぷ』、今年春にオープンした国際会議場ビーコンプラザで開催された国際会議の情報提供『SC 6』、ホームページの電子会議『COARA WWW 伝言板』、新着情報『WHAT'S NEW』、ハイパネットワーク社会へ向けての活動報告『TOWARD HYPER NETWORK』、大分青年会議所が提供する『宝ハンドブック』、『湯布院音楽祭』、『別府湾ジャズフェスティバル』、世界中の楽しいホームページを紹介する『NET SURFING』、目新しいところでは、新党さきがけや国会議員のホームページも登場し、その内容はますま

す充実しています。いずれもコミュニケーション型の情報提供ですが、当初の『One person, One homepage』のような個人の情報発信とはひと味違った、地域に根ざした情報交流が盛んになってきたように思います。

## ■ビジネス利用への展開

その中でも『一村一品バーチャルショップ』は、ビジネス利用という側面をもったホームページの可能性を広げていくと考えられます。このオンラインショップは、平松知事が推進する一村一品運動の電子ネットワーク版と言えます。現在、ホテル業、販売業、サービス業など10数社の出店があります。「従来の販売ルートではありえなかった関東、関西方面からの注文をうけてびっくりしている」(桃太郎海苔姫野氏)、「テレビ、ラジオの限られた時間の限られた情報提供の広告と違って、お客様が自由に自分に合った情報を取り出せる仕組みがいいですね」(ハーモニーラン



●一村一品バーチャルショップ・ホームページ

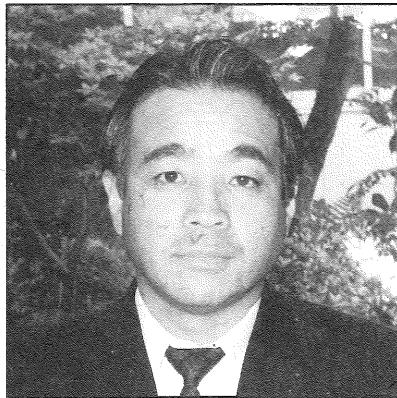
ド池田氏)といった期待が寄せられています。しかし、オンライン決済や単なる商品カタログにならないで商品周辺のイメージをどう伝えるかといった課題もあるようです。

### ■地域の魅力づくり

「買い物に来たというよりは、コアラの中に入ってきて、たまたまそこにショップがあった。それで買い物をしていく人が多いようです。コアラにいけばコミュニケーションもできるし買い物もできる、なにか楽しいことがあるといった雰囲気をいかに作り出していくかが今後のポイントになるでしょう」(姫野氏)とおっしゃるように、コアラは地域の魅力を包み込む大きな枠組みになってきているようです。

こうして広がりを見せるコアラ・ホームページですが、その影にはコアラ会員の様々な支えがあります。「ホームページ作成は、コアラ会員のサポートがあつてはじめてできた。今更ながらに、その人的ネットワークに感心しています」(ホテルニューツルタ鶴田氏)というコメントもあります。また、ご自身も「一ホテルの取り組みでなく、別府、将来は大分全体の観光資源のアピールをめざして取り組むみたい」というように、さらに地域に根ざしたネットワークは広がりをみせることが期待されます。

(武本幹雄・ハイパーネットワーク社会研究所)



(株)桃太郎海苔  
代表取締役社長 姫野清高さん

海苔の製造販売会社を経営する姫野さん。「コアラに店を出してはじめて"つながった"と感じました。当社1店だけならだれも見に来ないでしょう。これからは、コアラにくれば何か楽しいことがある、ショッピングもできる、といった遊び心をいかに充実させるかが大切でしょうね」

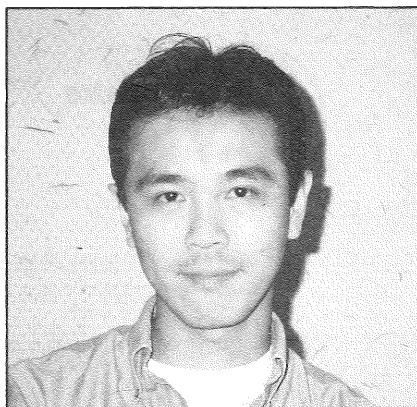
ホテルニューツルタ  
代表取締役社長 鶴田浩一郎さん

別府でホテルを経営される鶴田さん。別府旅館組合に説明するためにまず自らホームページを作成。将来は、別府市に止まらず大分県全体の観光資源をうまく表現できればと考えられています。「おもてなしという形のないサービスをいかに伝えるかが今後の課題になるでしょう」



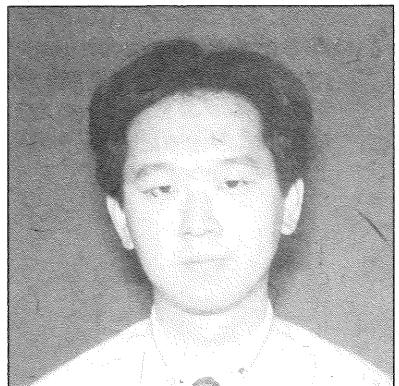
(株)ハーモニーランド  
営業企画課係長 池田睦さん

アミューズメントパークに勤める池田さん。「昨年の夏に園内に50台程パソコンを持ちこむイベントを企画しました。子ども達は、パソコンに触ることになんの抵抗もありませんね。今後もハーモニーランド情報に楽しくアクセスできるホームページとイベントを絡めた企画にとり組んでいきたい」



モリムラ寝装  
専務取締役 森晴繁さん

商店街で布団店を経営する森さん。「テレビ・カタログショッピングを焼き直したようなサイトが多い中で、手作り感覚が許される環境はコアラしかないんじゃないだろうか。対面販売を日常にしている僕は、いかに『face to face』をオンラインで再現するかに、大変興味を持っています」



# ハイパーネットワーク構想の現状

## ■ハイパーネットワークとは

今、世界的に脚光を浴びているインターネット技術に裏打ちされたマルチメディアネットワークであり、地域社会の情報通信基盤(R II)となるものです。

大分では、情報化委員会準備会(公文俊平会長/大分県とハイパーネットワーク社会研究所が事務局/将来は準備会から本委員会へ改組される予定)が中心になって、豊の国ネットやニューCOARA等をベースに、平成7年度以降に実施されようとしている様々な事業、NTTマルチメディア実験、通産省「先進的なアプリケーション整備事業」、郵政省「地域・生活情報通信基盤高度化事業」、文部省「へき地学校高度情報通信設備活用研究事業」等を通じて、順次拡張整備されていく予定です。

平成7年5月16日

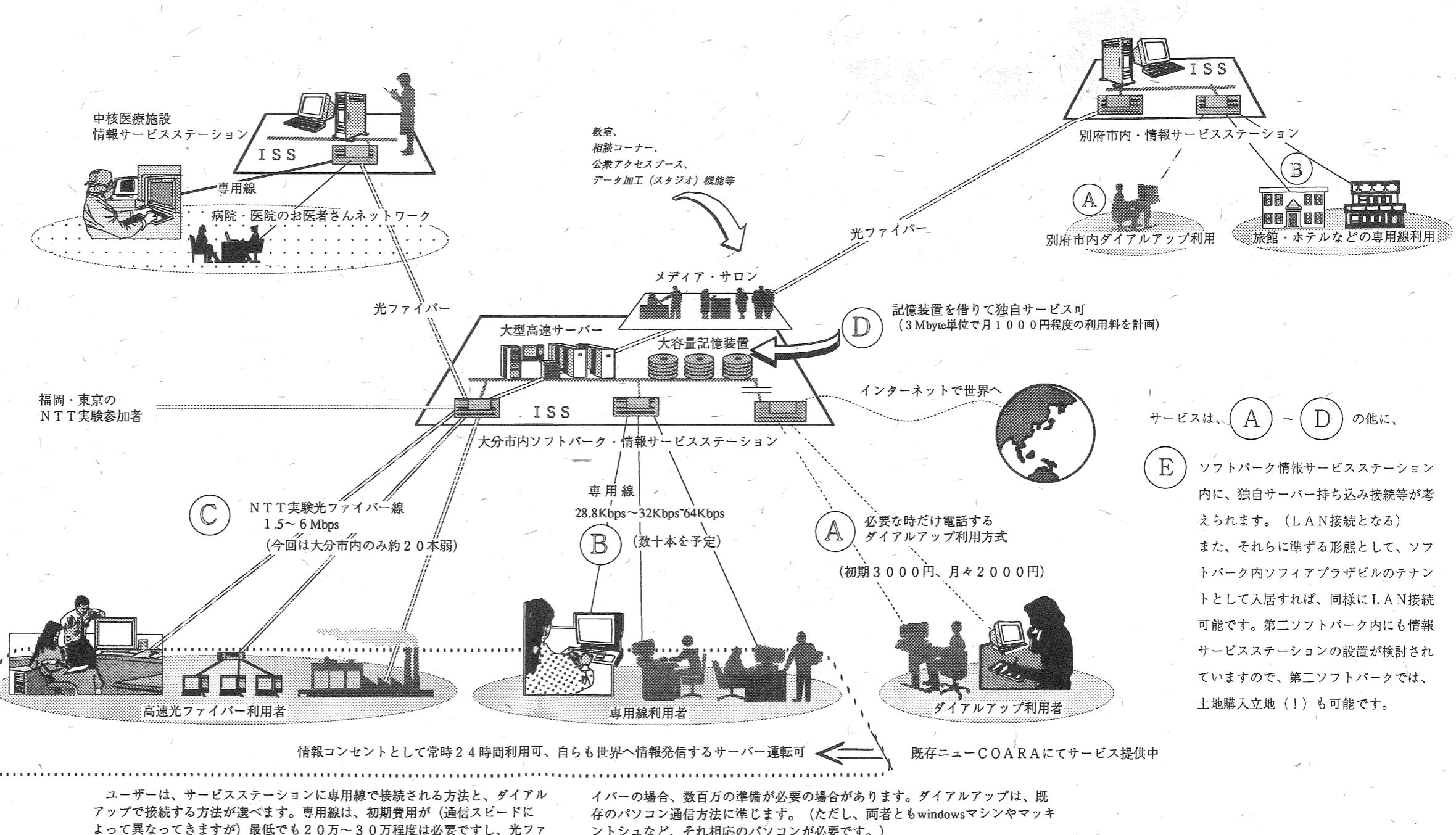
大分県情報化委員会準備会

大分県庁、大分県産業科学技術センター、大分県立芸術文化短期大学、(財)別府コンベンションビューロー、大分医科大学、新日本製鐵(株)大分製鉄所、大分ケーブルテレビ放送(株)、大分大学、大分工業高等専門学校、(株)トキハインダストリー、(株)大分銀行、中央町商店街、大分市医師会立アルメイダ病院、共同サーバセンターなど

このハイパーネットワークは、基本的に、  
 ・マルチメディア電子メール  
 ・マルチメディア電子会議  
 ・マルチメディア情報(WWW)サービスを行なうことができる機能を有しています。

中でも光ファイバー利用者は小画面の短時間ビデオ映像が扱える可能性を秘めています。

その利用法は利用者の知恵と創意により様々な発展を見せるでしょう。



## ■ハイパーフォーラムの概要

ハイパーフォーラムとは、大分に整備されるハイパーネットワークを使いこなすことを目的とする懇談会です。

普及啓発を目的に、

- (1) 2カ月に一度程度の勉強会、講習会、講演会等、開催
- (2) 利用法の研究、情報交換を主体
- (3) 当面、2カ年程度の限定フォーラム。(平成8年度末を一応のめど。延長の可能性があります)
- (4) 適時分科会開催。例えば、
  - ・バーチャル一村一品ショップ
  - ・自治体の利用
  - ・電子決済のあり方、
  - ・インターネット放送局、
  - ・マルチメディア新聞、
- (5) 企業等、組織、法人でも、個人でも参加可能とします。
- (6) 会費は、例えば、

法人会員	資本金1億円以上、(又は売り上げ高20億円以上)
年間	24,000円

それ以外は、

年間	12,000円
----	---------

個人会員 初回入会時にのみ  
入会金 1,000円
- (7) 事務局は、ハイパーネットワーク社会研究所で。

…と、計画しています。

参加のご意志を、事務局までお知らせ下さい。



●第一回ハイパーフォーラム風景

### 第一回ハイパーフォーラム 報 告

5月16日・17日、大分市内のホテルで第一回の「ハイパーフォーラム」が開催された。このフォーラムは、大分での地域実験に取り組むにあたっての参加呼びかけと準備状況の報告をすることを目的として行われたもので、会場には総勢300人近くの方々が集まった。

16日の基調講演では、日本経済新聞社産業部編集委員の中島洋さんから、「マルチメディアとネットワークの最新動向」として、内外のネットワークを活用している現状がわかりやすく報告された。また自らの体験をもとに、新聞社内部でのコンピュータの普及とネットワーク化の進展が具体的に紹介された。

パネルディスカッションでは、前半に、営業マンのいない商社としてカタログやネットワークを活用している(株)ミスミの吉田さん、インターネットを使って通信販売を行っ

ている香川県のうどん本陣「山田屋」関さんからインターネットをビジネスで活用している現状と問題点が紹介された。

後半では行政利用として、神戸市役所が震災の際にインターネットを活用した具体的な事例を中心に市役所として全国で初めて情報発信を行っている実状、札幌エレクトロニクスセンターからは準備中の「札幌メディアシティ」のホームページの紹介、また北九州市ヒューマンメディア創造センターから、北九州市のイベントの中継や歴史資料館の情報発信の事例などが報告された。

最後に、平松守彦大分県知事による、全国で唯一の地方自治体によるマルチメディア実験を楽しみにしている、これからは大分県をマルチメディアの先進地としていきたいという期待の言葉で締めくくった。

また、翌17日には、「電子決済」と「行政利用」の分科会が開かれ、熱心な討論が行われた。

実験の取り組みについては、インターネットでは<http://www.coara.or.jp/hyper2/hyper2.html>において逐次報告されており、またコアラの電子会議「A422 / NTT 実験・Hypernetwork を創ろう/NTT」でも活発な議論が行われているので参考にしていただきたいと思います。

# 別府湾会議'95ご案内

●日時：11月24-25日

●会場：別府コンベンションセンター（ビーコンプラザ）国際会議場  
および別府湾ロイヤルホテル

地域からグローバルまでを視野に、市民、企業、行政、研究者が一同に会し、新しいネットワークの利用の可能性と社会にとっての意味を問い合わせ、本ハイパネットワーク社会研究所誕生の原動力ともなったハイパネットワーク別府湾会議、その第4回が、今年11月に開催されます。

これまで、1990年の第1回（日出会議）から、92年、94年と隔年で春に開催してきましたが、今回は大分でのネットワーク地域実験の開始時期に合わせ、半年繰り上げ、本年11月に開催することになりました。

会議の全体テーマや具体的なプログラムの概要は、9月上旬には固まる予定で、現在準備にかかっています。

現在の「情報革命＝ネティ즌革命」の進行を受け、大分での地域実験の準備状況の報告をはじめ、「コミュニティ・ネットワーク」をめぐって、地域に新しい情報インフラを確立するためにはどのような社会システムが必要か、どんなアプリケーションが求められているの



●前回会議風景

か、どんなテクノロジーが使えるのかといった論点を設け、これまで同様、COARAをはじめとする利用者市民の視点を基本に、メーカー／ベンダー、技術者・研究者、社会学者、ビジネスマン、行政マンなど、多様な立場と考え方をもつ人々とが共通の土俵に上がって、おおいに考え、討論しようというものです。

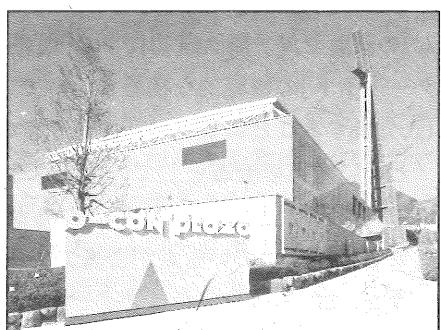
海外ゲストの発表、日本からの情報発信の状況やインターネットの最新アプリケーションのデモなども予定しています。さらに分野別に、オンライン新聞・放送などのメディア動向、電子決済を含むインターネットのビジネス利用、教育現場でのネットワーク実践、新しいエンターテインメント、情報通信の新しい料金体系、政治

とネットワーク、自治体などの行政利用、地域の産業振興などのテーマを取り上げたいと考えています。

毎回のことですが、盛りだくさんのテーマと徹底的な議論を特色としている別府湾会議、今回も深夜までセッションが続く予定です。会場も、今回は今年3月に完成したばかりの別府コンベンションセンターを使用します。

各地で新しいネットワーク利用をめぐるユニークな取組みをされている皆さん、ぜひ発表したいと希望される方は、なるべく早めに、事務局（ハイパネットワーク社会研究所本部）までご連絡ください。

それでは、11月に、温泉と自然と美味しい魚が待つ別府湾でお会いしましょう！



●会場予定のビーコンプラザ

## <<最近の所員のアウトプット>>

### ●公文俊平:講演一覧

(94/2-7月)

2/3 社会経済生産性本部(21世紀構想フォーラム):討論「産業社会の未来と成長のフロンティア」

2/10 UNIX FORUM FOR NTT:セミナー「インターネットとマルチメディア」

2/15 総合研究開発機構(「世界都市の研究」研究会)講演

2/16 日本マルチメディアフォーラム:講演「ネティ즌革命と企業」

2/21 三井不動産研究会:講演「マルチメディアと産業社会」

2/22 社会経済生産性本部月例研究会:座談会「国際協調と日本の立場」

2/23 日本電子出版協会創立10周年記念総会:講演「進展する情報革命」

2/26 MacWorld幕張:セミナー

3/1 工業技術院筑波総合シンポジウム:基調講演「高度情報化社会」

3/6 TEPIAクラブ:講演「ネティ즌革命」

3/8 上越教育大学:記念講演「インターネットと地域の情報化」

3/9 NTT新潟:「情報革命と地域ネットワーク」

3/13 金沢経済同友会:講演「情報革命と地域の情報化」

3/17 経営文化フォーラム:講演「マルチメディアのゆくえと日本の対応」

3/20 消費者大学:講演「情報社会到来で世界はかわる」

3/27 防衛庁研修

4/17 中部生産性本部:講演「マルチメディア社会の課題と米国の動向」

4/22 白金会 講演:「マルチメディアと日本社会」

5/9 富士銀行 :講演

5/23 財団法人中部産業活性化センター 講演:「マルチメディアと新産業社会像について」

6/2 静岡大学(新任教官等交流会):特別講演「情報化・国際化と教育」

6/21 電気通信産業連盟(研究プロジェクト第8回会合):講演「21世紀を展望したパラダイムシフトとその対応について」

7/6 経団連(広報委員会企画部会メンバー):講演「高度情報化社会と

わが国の対応」

7/7 (株)仙台ソフトウェアセンター(NAVIS記念シンポジウム):基調講演「ネティ즌--新世界マルチワールドの住民たち」

▼公文寄稿一覧のURLは、<http://www.glocom.ac.jp/WhatsNew/kumonlistnew.html>

### ●会津泉:雑誌・機関誌寄稿

・「マルチメディア革命の本質～ネットワーク経済とインターネット～」(『E S P』(経済企画庁広報誌)94.10月号)

・「インターネットの意味するもの」(『行政と A D P』94.11月号)

・「行政の将来とエレクトロニック・ガバメント」(『自治体学研究』第63号(94.冬))

・「ネットワークと新しい智」(『Graphication』(フジゼロックス機関誌)／94.12月号)

・「進化するネットワーク～企業経営にとってのインターネットの可能性～」(長銀総研エル(長銀総研)94.12月号)

### ●『アメリカの情報革命』 公文俊平著 N E C クリエイティブ 1,600円

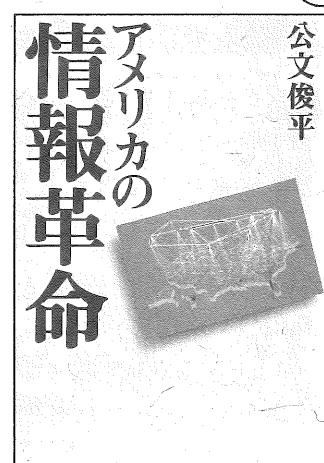
1990年代にはいって急速に進展するアメリカの情報化のうねりは、もはや「革命」という言葉が適切といえる圧倒的な段階に達している。前著の基本理論書である『情報文明論』に照らして、いまアメリカで起きているギルダーの「テレコズム」の議論やゴア副大統領による「情報ハイウェイ」構想、そして実行面では「インターネット」の積極的な構築について、ネットワークを通じて丹念に情報を収集し、分析することによって、「アメリカの情報革命」のゆくえを描き出している。

とくに産業の変革としての情報革命に加えて、コンピューター・ネットワークの中に棲んでいる「ネティ즌」たちがうみだす社会革命としての情報革命の重要さに言及している点が秀逸である。

なお、この本は全文がインターネットで提供されている。

<http://www.glocom.ac.jp/Publications/Kumon/USInfoRev.html>

好評



- ・「マルチメディア革命の本質」(『io/IWATAYA'S OPINION』(岩田屋企業報94.12月号)
  - ・「光ファイバか、インターネットか? NIIからGII,AII,JII」(『エレクトロニクス』(オーム社)95.1月号)
  - ・「とにかくやれ!」(『あけぼの』95.1月号)
  - ・座談会「マルチメディアを日本に普及させるには」(『電気通信』95.1月号)
  - ・「爆発するインターネット」(『企業経営』('94冬季号))
  - ・Feature 私のマルチメディア:「情報道路はだれが運転する? どこへ行く? だれが作る?」(『bit』(共立出版) / 95.1月号)
  - ・「マルチメディア社会とネットワーキング」(『Telecom Frontier』(通信・放送機構機関誌)95.2.1号)
  - ・紹介記事:「今月の表紙」(月刊ニューメディア / 95年6月号)
  - ・書評:大前研一著「インターネット革命」「もはや常識"インターネット革命"」(『図書新聞』95.4.22)
  - ・「グループウェアはどこに行く?」(『総研レポート』(NEC総研)95.6)
  - ・「大震災とオウム<上>」(『社会新報』(日本社会党中央機関紙)95.6.2)
  - ・「大震災とオウム<下>」(『社会新報』(日本社会党中央機関紙)95.6.9)
  - ・インタビュー:Part 12「インターネットは普及するのか?」(『マルチメディアはこれからどうなる?』NTTマルチメディアスコープ編・かんき出版)
  - ・「オープンメディア」(『マルチメディア学がわかる』AERA Mook 7 95.4.10)
  - ・『バーチャル・コミュニティ』 ハワード・ラインゴールド著 会津泉訳 三田出版会
- 藤野幸嗣:書籍、寄稿
- ・『よくわかるインターネット』(共著)ハイパーネットワーク研究会編 エーアイ出版 94.12.10
  - ・「大分ハイパーネットワーク地域実験」N E C 総研レポート 1 4 号 1995.2
  - ・「ハイパーネットワーク社会研究所のネットワーク環境」TBR経営環境レビュー 東レ経営研究所 1995.3

### ●『バーチャル コミュニティ』ハワード・ラインゴールド著 会津泉 訳 三田出版会 3,500円

ネットワークの利用が注目を浴びるようになってきたが、それはネットワークに親しみ、自分の仕事や生活の中にネットワークを活用している人達が着実に増えてきたからである。

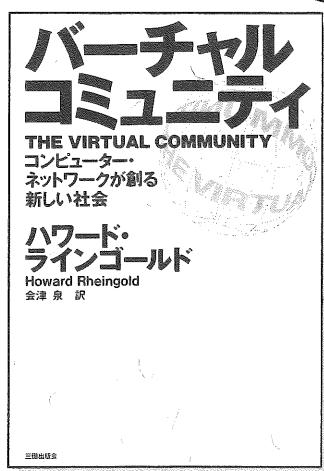
この本は、著者のホームネットであるサンフランシスコの電子コミュニティ「WELL」と大分の電子コミュニティ「コアラ」が、互いに地球の反対側にありながら、ほとんど似通った道を辿っていた過程と、その類似性を発見した驚きから生まれたものなのである。著者は、10年間にわたり電子のコミュニティの中に棲み、実際に関わった体験をもとにして、全世界のこうしたコミュニティに共感しながら、いま電子の世界に起こっている出来事を語っている。

原著(英語版)は、インターネット上で公開されている。

URLは<http://www.well.com/user/hlr/vcbook/index.html>

- ・「IT in Everyday Life」(英文)『Continuing Progress of Computerization in Japan 1995』Center of the International Cooperation for Computerization 1995.3
- ・「情報ハイウェイのゆくえ」『高度産業社会の産業経済システムと産業構造の将来展望に関する調査研究』産業研究所 95.5
- ・「マルチメディアを解剖する」『Nippon Steel Monthly』1995 4/5 特集マルチメディア 新日本製鐵 95.5.1
- ・「個人・生活における情報化」『情報化白書 1995』コンピュータ・エージ社 95.5.31
- ・『パソコンネットワークYellow Page』エーアイ出版 95.6.4
- ・『日経ムック マルチメディア社会のすべて』 日本経済新聞社 95.6.8
- ・「大分ハイパーネットワーク地域実験の試み」情報処理学会研究報告95-1M-22 95.7.14

6月新刊



## 原稿募集

## 問い合わせは

「Hyper Flash」では、皆さんの原稿を募集しています。皆さんの身近なネットワークや地域コミュニティに関する話題、日ごろハイパネットワークについて考えていること、ハイパー研について言いたいことなど、どしどしハイパー研究室にお寄せください。

電子メールでお願いできれば幸いです。

e-mail:hyper@fat.coara.or.jp

(財)ハイパネットワーク社会研究所

大分本部

〒870 大分県大分市東春日町51番8

大分ソフィアプラザビル4階

TEL:0975-37-8180 FAX:0975-37-8820

東京事務所

〒106 東京都港区六本木6-15-21

ハーツス六本木ビル1階

TEL:03-3402-8180 FAX:03-3402-8183

e-mail:hyper@fat.coara.or.jp

## ◆財団法人ハイパネットワーク社会研究所

### ■役員

理事長 渡辺文夫 (東京海上火災保険(株)相談役)  
専務理事 蒂刀将人 (大分県副知事)  
所長 公文俊平 (国際大学教授)  
副所長 月尾嘉男 (東京大学教授)  
理事 鈴木祥弘 (日本電気(株)専務取締役)  
持田侑宏 ((株)富士通研究所取締役  
マルチメディアシステム研究所副所長)  
三原種昭 (日本電信電話(株)常務取締役九州支社長)  
大橋 純 (NTTデータ通信(株)取締役  
経営企画部長)  
公文俊平 (国際大学教授)  
根橋正人 ((財)ユーメディア開発協会理事長)  
月尾嘉男 (東京大学教授)  
浜野保樹 (放送教育開発センター助教授)  
尾野 徹 (鬼塚電気工事(株)代表取締役社長)  
監事 荒木信正 ((株)大分銀行常務取締役)  
植木哲哉 ((株)豊和銀行常務取締役)

### ■評議員

青柳武彦 (日本テレマティック(株)取締役会長)  
赤松 毅 (日本放送協会 総合企画室[関連事業]専任部長)  
今井賢一 (スタンフォード日本センター 理事長)  
宇津宮孝一 (大分大学工学部 教授)  
釜江尚彦 (ピューレット・パッカード日本研究所取締役所長)  
北矢行男 (多摩大学教授)  
清原和也 (九州電力(株)取締役情報通信部長)  
園田善一 (日本アイ・ビー・エム(株)取締役)  
高原友生 ((株)シー・アール・シー総合研究所 取締役会長)  
田中 譲 (北海道大学工学部 教授)  
永次 廣 ((株)安川電機 専務取締役)  
松尾三郎 ((株)エスシーシー 代表取締役会長)  
三浦一郎 ((株)東芝 常務取締役)  
村井 純 (慶應義塾大学環境情報学部 助教授)  
渡部国男 (キヤノン(株)企画本部本部長)  
和波衛身 (アップルコンピュータ(株)取締役マーケット開発推進本部本部長)

### ■賛助会員

(株)アスキー  
アップルコンピュータ(株)  
梅林建設(株)  
(株)エスシーシー  
(株)N H K エンタープライズ 21  
(株)大分銀行  
大分ケーブルテレビ放送(株)  
大分航空ターミナル(株)  
(株)大林組  
鬼塚電気工事(株)

鹿島建設(株)  
キヤノン(株)  
(株)熊谷組  
九州電力(株)  
コクヨ(株)  
五洋建設(株)  
(株)佐藤組  
三協技研(株)  
(株)CRC総合研究所  
清水建設(株)

住友電気工業(株)  
(株)ダイコー・グループ本部  
(株)中電工  
東京海上火災保険(株)  
(株)東芝  
(株)トキハ  
日産自動車(株)  
日本アイ・ビー・エム(株)  
日本放送協会  
富士ゼロックス(株)

別府市役所  
(株)豊和銀行  
三井不動産建設(株)  
(株)三菱総合研究所  
(株)安川電機  
(株)リコー  
若狭建設(株)  
(五十音順)

HYPERRFLASH 第4号 1995年7月31日発行 (季刊)

発行人: 財団法人ハイパネットワーク社会研究所 編集責任: 会津 泉 編集: 武本幹雄  
大分本部 〒870 大分県大分市東春日町51番8 大分ソフィアプラザビル4階 TEL:0975-37-8180 FAX:0975-37-8820  
東京事務所 〒106 東京都港区六本木6-15-21ハーツス六本木ビル1F TEL:03-3402-8180 FAX:03-3402-8183  
e-mail:hyper@fat.coara.or.jp